

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	16-127	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Sleep apnoea in Australian men: disease burden, co-morbidities, and correlates from the Australian longitudinal study on male health.</p> <p>オーストラリア人男性における睡眠時無呼吸：オーストラリア人男性の長期健康調査から得られた疾患負担・合併症に関する報告</p>		
<b>執筆者</b>		
Senaratna CV, English DR, Currier D, Perret JL, Lowe A, Lodge C, et al.		
<b>掲載誌</b>		
BMC Public Health. 2016 Oct 31;16(Suppl 3):1029. doi: 10.1186/s12889-016-3703-8.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
オーストラリア人、睡眠時無呼吸、疾患負担、合併症		28185594
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b>		
男性に多い閉塞性睡眠時無呼吸は、臨床的影響を過小評価されてきたが、近年、疾患負担が大きいと注目され始めている。しかし、オーストラリア人における本疾患の有病率、合併症、危険因子に関する知見は十分ではない。		
<b>方法：</b>		
オーストラリアの健康調査である Ten to Men 前向きコホート研究に、都市部と郊外から参加した 18-55 歳の男性 13,423 人を対象とした。自記式質問表を用いて、医療従事者の診断による睡眠時無呼吸の既往歴の有無、心身の健康状態、健康関連の生活習慣についての情報を得た。有病率は、居住地域別のオーバーサンプリングを考慮し、抽出割合で重みづけを行い算出した。年齢、出生国、体格指数を調整して、各危険因子と睡眠時無呼吸のオッズ比を算出した。		
<b>結果：</b>		
医療従事者の診断による睡眠時無呼吸の有病率は、18-25 歳は 2.2%、45-55 歳は 7.8%であった。睡眠時無呼吸がある者はない者に比べて、心身の健康状態および主観的健康感が統計学的に有意に低く、集中力や記憶力も低かった(全ての項目で $p < 0.001$ )。また、睡眠時無呼吸は、高齢( $p < 0.001$ )、無職( $p < 0.001$ )、喘息( $p = 0.011$ )、COPD ( $p = 0.002$ )、糖尿病( $p < 0.001$ )、高コレステロール血症( $p < 0.001$ )、高血圧( $p < 0.001$ )、心臓発作( $p < 0.001$ )、心不全( $p < 0.001$ )、狭心症( $p < 0.001$ )、うつ病 ( $p < 0.001$ )、心的外傷後ストレス障害( $p < 0.001$ )、その他の不安障害( $p < 0.001$ )、統合失調症( $p = 0.002$ )、過体重や肥満 ( $p < 0.001$ )、不十分な身体活動( $p = 0.006$ )、喫煙( $p = 0.005$ )、多量飲酒( $p < 0.001$ )と有意に関連していた。		
<b>結論：</b>		
医療従事者の診断による睡眠時無呼吸の既往者は、高齢男性に多く、心身の健康や主観的健康感の低い者が多かった。また、検討した併存症 15 種のうち 13 種と関連しており、不十分な身体活動、喫煙、過剰飲酒といった生活習慣とも関連を認めた。		